

あじ島冒険楽校・網地島ふるさと楽好(宮城県石巻市)

あじ島冒険楽校

網地島ふるさと楽好 愛され 大切にされる記憶を子どもたちに

主催：あじ島冒険楽校・網地島ふるさと楽好

**共催：さかさがわ山学校、NPO法人エコパル化女沼、
野生植物研究所、 網地島ふるさと楽好、あじ朗志組**

<http://plaza.rakuten.co.jp/ajisima/>

あじ島冒険楽校は 2004年、網地島ふるさと楽校は 2006年に発足した網地島独自の島の楽校である。これまで1200 人の子供達が参加している。

網地島は高齢者ばかりが住む限界集落であり、島の高齢者たちは、将来が見えない島の状況に対して、諦めの気持ちばかりを持っていた。このような気持ちを払拭し、自らができるところから始めようとして立ち上げたのがこの「あじ島冒険楽校」である。「昔の子どもたち」(島のお年寄り)が、「未来の大人たち」(島外の子どもたち)へ「島の夏休み」を伝えたいとの思いで始めた。2006年には島の反対側の集落の方々が、親のいない子どもも島に呼びたいということで、網地ふるさと楽好を開校し、仙台市内の児童養護施設の子どもたちを毎年無料で招待した。

活動内容としては、昔の小舟の代わりに、シーカヤックを使ったスポーツ体験や網地島だけの魚釣り「アナゴ抜き」を島外の子どもたちに楽しんでもらう。島の多くの高齢者の方が関わり、温かな交流が限界集落の人々の心の復興に寄与している。高齢で亡くなる方が多くなってきているが、子どもたちとのこれまでの交流を大切に網地島の活性化のため、活動を続けていきたいと考えている。



電話：090-2609-0673 メール：odadumokko@yahoo.co.jp

担当者：事務局長 阿部欽一郎

下北ベースボールクラブ(青森県むつ市)

下北杯野球大会

ALL FOR THE CHILDRENすべては子供達のために

**主催：下北ベースボールクラブ
(下北ベースボールクラブ父母会)**

<https://www.facebook.com/shimokita.bbc/>
<http://www.ikz.jp/hp/mas589/>

平成25年に発足した下北ベースボールクラブは、少子化による下北地域の野球環境の衰退に危機を感じ、プロ野球選手による野球教室の開催、清掃活動、食育講習などを企画してきた。その事業のひとつとして、下北杯野球大会の開催がある。3回開催し、参加人数は285名。ボランティアは約100名。この大会の特徴は、どの連盟にも属さない、一市民による野球大会であり、何にも縛られず、私たちにしかできない発想による運営である。

内容は、①大会当日に、全チームの観客の前で抽選により対戦相手を決定。②地域の食材ブースの提供。下北地域の海の恵みや山の恵みを大いに味わい大会を大いに盛り上げ、華やかにする。③歓迎レセプション。他地域の選手や父兄、地元の選手や父兄の方々が、一同に会し、地域の食材や地域の芸能などを鑑賞できるイベント。食事を終えたら、『むつ市のアゲハ』という夜景鑑賞に案内。④抽選会や○×クイズなども行い、賞品の中には商品券や割引券などを提供。⑤チーム戦として、キャッチボールクラシックという競技を楽しんでいただく。

今後は、野球人口の底辺を拡大するため、この大会を継続し、募集を全国に拡大することや、年齢層に分類した野球大会の開催などを検討する。知恵を出しあい、野球大会以外にも足を運んでいただけるような地域にすべきと考えている。

ただいま下記プロジェクト進行中です。

第4回下北杯野球大会TV化プロジェクト

クラウドファンディング FAAVOしもきた

<https://faavo.jp/shimokita/project/support/1470#pj-single-nav>



電話：090-7326-3759

メール：hatayama_masaru@city.mutsu.lg.jp

担当者：事務局 畑山勝

Member 制作実行委員(北海道釧路市) 氷都くしろのフリーペーパー Member+Over

釧路管内の幼稚園・保育園・小中高の全生徒に配布!
釧路の子供たちのスポーツを取り上げたフリーペーパー

主催：NPO法人東北北海道スポーツコミッション
Member制作実行委員会

<https://www.facebook.com/946member/>

釧路市は日本有数のウィンタースポーツが盛んな街で、氷都くしろと言われ、アイスホッケーでは、戦前から釧路で始まり、アジアのトップリーグのチーム・日本製紙クレインズのホームで、小学生から社会人まで数多くの市民が競技を楽しんでいるホッケータウン。現在、氷上人口の減少(特に小学生)、十条スケートセンターの閉鎖によって、活動するリンクが限られ、目に見えて寂れてきている。制作実行委員会では、氷都くしろを盛り上げるべく、釧路の氷上競技に特化したフリーペーパーを創刊し、氷上競技に興味を抱いてもらうと同時に、氷上競技のムーブメントを起こしたいと考え、発刊にいたった。実行委員会を2014年11月に設立。実行委員はボランティアで活動。第1号、2号と発刊し、読者アンケートを集計した結果、スケートだけでなく夏の競技も取り上げて欲しい、頑張っている子供たちが見たいとの沢山の声があったため、増ページを行いスケート競技以外も取り上げた誌面内容となっている。釧路管内8市町村の小中高全生徒、釧路市・釧路町の保育園、幼稚園の全家庭等34,000部発行。Member+Overの発行は、広告による地域企業の利用の経済効果とスポーツ振興という社会効果の2つの効果を生み出すことができる。



電話：080-1865-7464 メール：946member@gmail.com
担当者：大和田 礼

すこやかキッズスポーツ塾 実行委員会(東京都豊島区)

デサントすこやかキッズスポーツ塾

10年間の活動で生まれた、地域との絆 子ども達から地域へ

主催：すこやかキッズスポーツ塾実行委員会

後援・協力:文部科学省、スポーツ庁、地元自治体、他

<http://www.descente.co.jp/company/csr/CSRVOICE8.pdf>

<http://www.descente.co.jp/company/DESCENTE%20VOICE%20vol6-1006H.pdf>

すこやかキッズスポーツ塾は小学生児童向けのスポーツ体験型プログラムとして2006年に発足。スポーツをする機会が少なくなり、親世代よりも体力が低下している現代の児童たちに“スポーツの楽しさを知ってもらい、スポーツを好きになってほしい”という思いのもと元オリンピック選手などを塾長として迎えたレベルの高い指導を全国で行っている。

株式会社デサントがスポーツメーカーとして培った経験とネットワークを活用し重要なCSR＝社会貢献－として取り組んでいる事業。事業内容は、2つのプログラムを基本として活動を行っている。

- ①「1日スポーツ塾」地域の体育施設を全館貸切し複数種目を同時開催する大型イベント。
- ②「学校訪問」授業の一環として各学校を訪問する出前授業。

この活動の目的は、「すこやかなスポーツ体験で、子供たちから町を元気に！」

トップアスリートたちとのリアルな交流体験で、本物からしか伝わらないスポーツの充実感を子供 たちに感じてもらい、スポーツを好きな子、運動することが好きな子が増えてほしい。

“子供たちが元気になれば、大人も元気になり、町もきっと元気になる”

“スポーツの力で、全国 の町をこれからも元気に！”それが私たちの願いである。



みなComing体操を実演指導
<http://minakami-taiso.com/>



子ども達とともに

電話：03-5979-6028

メール：e-yamakawa@descente.co.jp

担当者：山川悦子

一般社団法人日本スキムボード協会(神奈川県伊勢原市)

SKIM FES 2015

楽しい夏が海にある!Let's スキムボーディング!!

主催：一般社団法人日本スキムボード協会

<http://www.jsa-skim.com/>

スキムボード(スキムボーディング)とはビーチから波打ち際で行うマリンスポーツ・ウォータースポーツの一種。日本スキムボード協会は2013年に設立し、全国を統括する団体ですがまだまだ小さな組織のため全国に支部はないが、活動範囲は全国各地で毎年多くのイベントを開催している。各地の行政や地域住民と協働し、「スキムボードの無料体験教室」や「海岸清掃などの社会貢献活動」をこれまで全国各地でのべ13回開催。約1300名の方々とスキムボードを通じ交流を深めてきた。今年も新潟県・神奈川県・三重県・福岡県・宮崎県で開催予定。マリンスポーツを通して自然環境への理解を深め、スポーマンシップを学びながら青少年の人間形成の一助になる様に尽力している。日本国内の全てのスキムボーダーが参加できる事業を展開し、引退後も技術や経験・知識が活かせる様に指導者や審判員など様々な形で業界に携わる事のできるシステムを作り、業界の拡大を図りながら世代や地域を超え、洗練された循環型システムの構築を目指し活動が続けていく。



電話：0463-26-8031

メール：info@jsa-skim.com

担当者：牛尾大亮

FUJIO PROJECT（東京都港区）

ジュニア トレイルランニング

「強く優しい、カッコ良いトレイルランナー」を一緒に目指そう!

主催：FUJIO PROJECT

<http://www.jr-trail-running.com>

Jr TRAIL RUNNINGの発足は、2011年。東京都青梅市を最初の開催地とし、千葉、山梨など各都県で開催。開催回数16回。域外参加人数は100～200名、ボランティア30名。トレイルランニングとは？不整地を走るアウトドアスポーツ。登山道・不整地・芝・砂利・砂浜など主に未舗装の路面を走る。野山を走る楽しさと山でのルールやマナーなど大会を通じて学ぶ。トレイルランニングの効用は、不整地を走る事で日常的に使わない部位を鍛える事が出来る。バランス感覚の養成。反射神経の養成。自然に親しむ体験が出来る。山梨県甲府市の大会では県外来訪者による、前泊や温泉利用など周辺の認知度up と経済効果もある。トレイルランニングは競技としても実施されている。距離は5km 程度(もっと短いものも)から、長いものでは数100kmまでと多岐に渡る。日本語では、山岳マラソンや山岳耐久レースという訳で紹介されることもある。アメリカ合衆国では、草レースはもちろんのこと賞金レースが存在するほか、欧州陸上競技協会の公認レースもある。日本でも定期的開催されるレースが多数あり、その数は年々増加傾向にある。2016年は神奈川、群馬、長野で新規大会を実施。



電話：090-5305-7773

メール：fujio.miyachi.1130@gmail.com

担当者：宮地藤雄

浦ノ内地区青壮年の会 りぐる浦ノ内(高知県須崎市)

鯛伊食祭 ～たいいくさい～

地域住民てづくりの冬の“体育祭”

主催：浦ノ内地区青壮年の会 りぐる浦ノ内

<https://www.facebook.com/riguruuranouchi/>
<http://uranouchi.jimdo.com/>

青壮年団『りぐる浦ノ内』が初めて手掛けたイベントが『鯛伊食祭(たいいくさい)』。2012年より気軽なスポーツイベントと伊勢海老や鯛、地元料理を味わえるグルメイベントの2本立てで組み立てられた、地域住民手作りのイベントである。伊勢海老と鯛、運動会が融合したワード…運動会の別名でもある『タイイクサイ』はタイトルのユニークさや伊勢海老のインパクトが大きな反響を呼び、過去5回開催の総来場者数は約7000人となりました。スポーツイベントは広大な芝生広場を会場とし、ユニークなオリジナル競技が特徴。一般の方は最年少が6歳、最高齢は60代までと多彩な顔ぶれで地元の家族やその友人が約4割、市外(高知市や香南市など)からの参加者が約6割となっている。第3回目からは地元にある明德義塾中・高等学校の外国人留学生が毎年10名ほど参加してくれるようになり、異文化交流の場としても機能し始めている。浦ノ内地区の認知度・知名度を上げていくことも重要であり、その一端を担ってくれるイベントとしてますます成長させていきたい。



電話：0889-49-0311(浦ノ内公民館内)

メール：riguru01@mb.scstv.ne.jp

担当者：上野伊代

有限会社エクストレモ(東京都墨田区)

ありのままの自然を活用した

“アドベンチャーレース”

アウトドアアクティビティを駆使し、チームで協力しながら自然と対峙する
“アドベンチャーレース”を全国で展開

主催：有限会社エクストレモ

<http://www.a-extremo.com>

大自然を活かし、里山や林道、透きとおる川や海など地域特有のコースがレースの舞台で、参加者だけでなく地元の人も地域の再発見ができるよう心掛けています。アドベンチャーレースとは、3～4名が1チームとなり、様々なアウトドアアクティビティ(トレイルランニング、トレッキング、マウンテンバイク、カヤック、オリエンテーリング)を駆使しながら、チームで協力してゴールを目指していくレースである。2005年に発足し11年間で78回の開催。大会は、地域交流や地域活性に貢献しつつ、4つの目標(①環境保護・自然保護 ②地域の宣伝 ③地域経済の発展 ④地域住民の協力)を持って開催している。エクストリームシリーズ(福島県南会津町他3ヶ所)、エクストリームウィンターチャレンジ(長野県高山村)、東伊豆アドベンチャーラリー(静岡県東伊豆市)、エクストリームチャレンジ in 四国の右下(徳島県海陽町)、やんばる東村アドベンチャーラリー(沖縄県東村)を開催。2016年には新たに、山形市蔵王、静岡県下田市でも開催され、10エリアでの開催になる。仲間が仲間を呼び、その地域の良さを口コミで発信していければと思っている。



電話：03-5610-0638 メール：r_gabe@a-extremo.com
担当者：我部乱

一般社団法人 北海道フロアボール普及プロジェクト(北海道紋別郡)

幼児から大人まで一緒に遊ぶ、 カフェのようなスポーツ文化を フロアボール(室内ホッケー)で実現したい!

北海道フロアボール普及プロジェクト(通年事業)

主催：一般社団法人北海道フロアボール普及プロジェクト

<http://hokkaido-floorball.jimdo.com/>

フロアボール(floorball)というスウェーデン発祥の室内ホッケースポーツを、多世代交流可能な生涯スポーツとして普及させるために、法人を設立しました。子供と大人が混ざって遊ぶスポーツの魅力をたくさんの人に伝えたいというモチベーションが、活動の原動力です。私達が目指す多世代交流活動のロールモデルを確立させるために、「遠軽フロアボールCafe」という活動を月に3～4回、通年で開催しています。遠軽フロアボールCafeは、幼児から高校生までは参加費無料、大人は一回100円で参加できるという地域に開かれた活動です。単なるスポーツサークルではありません。当法人の主たる事業はフロアボール体験イベントを道内各地で開催することであり、教育委員会やスポーツクラブなど様々な団体と協働して事業を企画しています。カフェのように気軽に出入りできるスポーツ活動の場を沢山増やしていくために、フロアボールを使って仕掛けていきます。



電話：090-7519-1299

メール：hkyt22@gmail.com

担当者：梅田弘胤